2025 年度（令和 7 年度）

シラバス

理学療法学科　昼間部

履正社国際医療スポーツ専門学校

2025（令和7） 年度　　講義計画（シラバス）

開講年次	3年後期	分野	専門基礎	単位（時間）	1（30）	必須
科目名	薬理学	担当教員【◎は科目責任者】 ◎佐藤　公彦				知
実務経験						
科目のねらい	本講義では，医療現場の治療に用いられている薬物を紹介し，その作用メカニズムや副作用の理解を促す。そのためには，薬物の生体内での動態や作用点での反応を理解することが必要不可欠である。また，どのような疾患でどのような薬物が使用されているか，使用時の注意点を説明し，医療現場での薬物治療に関する理解を深めてもらう。					
到達目標	①薬物の基本的事項について理解する。 ②対象疾患に対する薬物療法について理解する。 ③薬物の副作用と多剤服用（ポリファーマシー）症状について理解する。 ④疾病の治療について理解する。 ⑤薬物の作用機序について説明できる。 ⑥薬物の投与方法について説明できる。 ⑦薬物の体内病態について説明できる。 ⑧運動器系疾患に対する薬物療法について説明できる。 ⑨神経系疾患に対する薬物療法について説明できる。 ⑩呼吸・循環器系・代謝系疾患に対する薬物療法について説明できる。 ⑪その他の疾患に対する薬物療法について説明できる。 ⑫薬物の副作用について説明できる。 ⑬薬害について説明できる。					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	・リハビリテーションにおける薬理学・臨床薬理学の重要性 ・薬理学・臨床薬理学とは ・薬と薬物療法	0.5/0.5	①②
第2回	・薬の生体内運命と薬効	0.5/0.5	③④
第3回	・薬理作用と作用機序 ・薬のリスクと薬害 ・薬に関する法律・規則	0.5/0.5	⑤⑥⑦⑫⑬
第4回	・神経のはたらき ・自律神経系に作用する薬	0.5/0.5	⑧⑨
第5回	・筋弛緩薬・抗痙縮薬 ・抗てんかん薬，抗パーキンソン病薬，抗うつ薬，統合失調症治療薬，認知症治療薬，睡眠薬・抗不安薬	0.5/0.5	⑨
第6回	・心臓と血管 ・心不全治療薬，降圧薬	0.5/0.5	⑩
第7回	・抗血栓薬（血栓溶解薬，抗血小板薬，抗凝固薬）	0.5/0.5	⑩
第8回	・虚血性心疾患治療薬，不整脈治療薬，末梢動脈疾患治療薬，静脈血栓症治療薬	0.5/0.5	⑩
第9回	・脳血管障害の分類 ・脳梗塞の原因 ・脳梗塞急性期治療薬，脳梗塞慢性期治療薬，脳出血治療薬	0.5/0.5	⑩
第10回	・痛みと炎症とは ・解熱鎮痛薬，ステロイド，麻酔薬，麻薬性鎮痛薬，神経障害性疼痛緩和薬，関節リウマチ治療薬	0.5/0.5	⑪
第11回	・免疫系とは，アレルギーとは ・抗アレルギー薬 ・呼吸器のはたらき ・気管支喘息治療薬，慢性閉塞性肺疾患（COPD）治療薬，肺炎治療薬 ・皮膚外用剤，点眼薬，点鼻薬	0.5/0.5	⑩
第12回	・感染症とは ・抗菌薬，抗ウイルス薬，抗真菌薬 ・感染症の予防と消毒薬	0.5/0.5	⑪
第13回	・悪性腫瘍とは ・化学療法薬，分子標的薬，ホルモン療法薬，がんによる痛みの治療薬	0.5/0.5	⑪
第14回	・代謝とホルモン ・糖尿病治療薬，骨粗鬆症治療薬，脂質異常症治療薬，痛風治療薬	0.5/0.5	⑩
第15回	・消化器の働き ・消化性潰瘍・慢性胃炎治療薬，制吐薬，便秘・下痢の治療薬，炎症性腸疾患治療薬	0.5/0.5	⑪

教科書	リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学（南江堂）
参考文献	
授業方法	講義中心
関連科目	
成績評価基準と方法	筆記試験（90%）と出席状況（10%）
その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）	テキストの他、配布物も使用する。

2025（令和7） 年度　　講義計画（シラバス）

開講年次	3年後期	分野	専門基礎	単位（時間）	1（30）	必須
科目名	臨床検査・画像診断学	担当教員【◎は科目責任者】 ◎川瀬　和大、荒瀬　友岳、大隅　彰憲、今藤　広大				知
実務経験						
科目のねらい	生化学検査、生理検査、画像検査を中心に、それぞれどのような検査なのか、各数値にどのような意味合いがあるのか、理学療法実施においてどのような留意点があるのかについて説明する。					
到達目標	①臨床で行われる各検査について、どのような検査なのか説明できる。 ②臨床で行われる各検査の結果から、理学療法実施上の留意点について説明できる。 ③レントゲン画像から理学療法実施上の留意点について説明できる ④CT,MRI画像から理学療法実施上の留意点について説明できる ⑤超音波エコー画像から理学療法実施上の留意点について説明できる ⑥ビデオなどの動作解析画像から理学療法実施上の留意点について説明できる ⑦心電図波形から理学療法実施上の留意点について説明できる ⑧筋電図波形から理学療法実施上の留意点について説明できる ⑨生化学検査について説明できる ⑩生理検査について説明できる					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	オリエンテーション	0.5/0.5	
第2回	血液検査についての概要　理学療法実施上の留意点について	0.5/0.5	①②⑨
第3回	肺機能検査についての概要　理学療法実施上の留意点について	0.5/0.5	①②⑩
第4回	肺機能検査についての概要　理学療法実施上の留意点について	0.5/0.5	①②⑩
第5回	心電図についての概要　理学療法実施上の留意点について	0.5/0.5	①②⑦⑩
第6回	心電図についての概要　理学療法実施上の留意点について	0.5/0.5	①②⑦⑩
第7回	脳画像について	0.5/0.5	①②④
第8回	脳画像について	0.5/0.5	①②④
第9回	脳画像について	0.5/0.5	①②④
第10回	脳画像について	0.5/0.5	①②④
第11回	運動器疾患の画像診断について	0.5/0.5	①②③④
第12回	運動器疾患の画像診断について	0.5/0.5	①②③④
第13回	運動器疾患の画像診断について	0.5/0.5	①②③④
第14回	運動器疾患の画像診断について	0.5/0.5	①②③④
第15回	胸部の画像について	0.5/0.5	①②③

教科書	指定なし
参考文献	指定なし（適宜指示）
授業方法	講義、個人ワーク、グループワーク
関連科目	
成績評価基準と方法	筆記試験（100%）
その他 （学生へのメッセージ・履修上の留意点）	リハビリテーションを行う上で、対象者の病態を把握し、適切なリハビリテーションのレベルを設定できることはとても大切な知識・技術になります。病態を把握する上で確認が必要なのが「検査データ」や「画像所見」になります。この授業ではそれぞれの「検査データ」や「画像所見」がどのような意味を持っているのか、その所見からリハビリテーションを行う上でどのようなことに注意が必要なのかといった点を学びます。このような学びを通して、対象者の病態を把握し、適切なリハビリテーションのレベルを設定できる理学療法士を目指します。

2025(令和7) 年度　　講義計画(シラバス)

開講年次	3年前期	分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	理学療法研究法Ⅲ	担当教員【◎は科目責任者】 ◎藤井隆太				知・技・表態・思・判
実務経験	○	病院勤務(理学療法士)として臨床				
科目のねらい	2年次科目のボトムアップ評価(理学療法評価学演習)、トップダウン評価(理学療法評価学実習)を繋げて思考できるように講義を進める。前半は整形疾患、後半は中枢疾患で演習を行う。この科目で学んだ内容を最終的にはクリニカルリーズニングの認知領域ワークシートに落とし込めるようになるところがこの科目のねらいである。					
到達目標	①理学療法評価の目的・評価方法・スクリーニング検査について説明できる。 ②理学療法評価を実施する時期について説明できる。 ③理学療法評価に基づく治療計画立案までのプロセスが説明できる。 ④理学療法実施に関わる情報の整理の仕方が説明でき、情報整理ができる。					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	整形疾患　WORKⅠ	0.5/0.5	①～④
第2回	整形疾患　WORKⅡ	0.5/0.5	①～④
第3回	整形疾患　WORKⅢ	0.5/0.5	①～④
第4回	整形疾患　WORKⅣ	0.5/0.5	①～④
第5回	整形疾患　WORKⅤ	0.5/0.5	①～④
第6回	整形疾患　WORKⅥ	0.5/0.5	①～④
第7回	整形疾患　WORK補填授業	0.5/0.5	①～④
第8回	小テスト(整形疾患)	0.5/0.5	①～④
第9回	中枢疾患　WORKⅠ	0.5/0.5	①～④
第10回	中枢疾患　WORKⅡ	0.5/0.5	①～④
第11回	中枢疾患　WORKⅢ	0.5/0.5	①～④
第12回	中枢疾患　WORKⅣ	0.5/0.5	①～④
第13回	中枢疾患　WORKⅤ	0.5/0.5	①～④
第14回	中枢疾患　WORKⅥ	0.5/0.5	①～④
第15回	中枢疾患　WORK補填授業	0.5/0.5	①～④

教科書	指定なし(適宜配布)
参考文献	指定なし(適宜指示)
授業方法	グループワークを中心として授業を行います。
関連科目	理学療法評価学演習、理学療法評価学実習、クリニカルリーズニング
成績評価基準と方法	出席率、成果物、授業態度などを総合して評価する(整形疾患50%、中枢疾患50%)
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)	2年次科目のボトムアップ評価(理学療法評価学演習)、トップダウン評価(理学療法評価学実習)の復習をしておくこと

2025(令和7) 年度　　講義計画(シラバス)

開講年次	3年通年	分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	理学療法研究法Ⅳ	担当教員【◎は科目責任者】 ◎大井直樹				知・技・表・態・思・判
実務経験	○	理学療法士として臨床				
科目のねらい	効果的な理学療法提供において、対象者との信頼関係の構築は必要不可欠である。また、チーム医療の実践においては他職種との関係性構築が重要となる。そのため理学療法士は豊なコミュニケーションスキルが求められる。本科目では臨床において必要となるコミュニケーションスキルを養うことを目的としている。					
到達目標	①医療面接の役割について理解できる。 ②言語的及び非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。 ③意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できコミュニケーションの4要素について理解できる。 ⑤対象者に対して社会人として相応しいコミュニケーション(適切な挨拶、言葉使いなど)がとれる ⑥医療人としての自覚を持ち対象者(家族を含む)と良好な関係をつくり、維持することができる。 ⑦実習指導者との十分なコミュニケーションを保って良好な関係を維持することができる。 ⑧積極的に理学療法スタッフや関係職種と関わり、良好な関係を維持することができる。					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	講義①医療面接の基礎	0.5/0.5	①
第2回	講義②コミュニケーションの基礎	0.5/0.5	②③④
第3回	演習①コミュニケーションスキルの実践	0.5/0.5	②③④
第4回	演習②非言語コミュニケーション	0.5/0.5	②③④
第5回	講義③なぜコミュニケーションが必要なのか	0.5/0.5	②③④
第6回	講義④コミュニケーションの行き違いはなぜ起こるのか	0.5/0.5	②③④
第7回	講義⑤医療面接をどう学ぶのか。	0.5/0.5	⑤⑥
第8回	演習③ロールプレイ	0.5/0.5	⑤⑥
第9回	演習④ロールプレイ	0.5/0.5	⑤⑥
第10回	実習前の準備：自身の目的意識の整理	0.5/0.5	①
第11回	実習前の準備：自分を客観視しましょう（メタ認知）	0.5/0.5	①②③④
第12回	実習前の準備：対象者との関係性構築	0.5/0.5	⑤⑥
第13回	実習前の準備：論理的思考	0.5/0.5	①
第14回	実習前の準備：社会的マナー	0.5/0.5	⑤⑥⑦⑧
第15回	まとめ	0.5/0.5	⑤⑥⑦⑧

教科書	指定なし(適宜配布)
参考文献	指定なし(適宜指示)
授業方法	グループワークを中心として授業を行います。
関連科目	理学療法研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
成績評価基準と方法	授業態度(50%)、課題(50%)
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)	

2025（令和7） 年度　　講義計画（シラバス）

開講年次	3年前期	分野	専門	単位（時間）	1（30）	必須
科目名	臨床運動学	担当教員【◎は科目責任者】 ◎森　憲一、森下　健、塩見　太一朗、高橋　郁美				知・技 思・判
実務経験						
科目のねらい	モーターコントロール原著（Anne Shumway-Cook , Marjorie H.Woollacott著）の図書を中心に講義を行い、特に中枢神経疾患に対する臨床を網羅する。途中、モーターコントロールに記載のない、骨格筋に関する基礎医学を臨床の評価・治療に応用する考えを、一部教科書ではなく、スライド配布にて講義する。					
到達目標	①これまで学んだ基礎医学（特に基礎運動学）を臨床の実際で活用できる手がかりを得る。					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	神経生理学的知識とその臨床応用①	0.5/0.5	①
第2回	神経生理学的知識とその臨床応用②	0.5/0.5	①
第3回	神経生理学的知識とその臨床応用③	0.5/0.5	①
第4回	神経生理学的知識とその臨床応用④	0.5/0.5	①
第5回	骨格筋の基礎知識とその臨床応用①	0.5/0.5	①
第6回	骨格筋の基礎知識とその臨床応用②	0.5/0.5	①
第7回	骨格筋の基礎知識とその臨床応用③	0.5/0.5	①
第8回	骨格筋の基礎知識とその臨床応用④	0.5/0.5	①
第9回	神経生理学的知識とその臨床応用⑤	0.5/0.5	①
第10回	神経生理学的知識とその臨床応用⑥	0.5/0.5	①
第11回	神経生理学的知識とその臨床応用⑦	0.5/0.5	①
第12回	神経生理学的知識とその臨床応用⑧	0.5/0.5	①
第13回	神経生理学的知識とその臨床応用⑨	0.5/0.5	①
第14回	神経生理学的知識とその臨床応用⑩	0.5/0.5	①
第15回	神経生理学的知識とその臨床応用⑪	0.5/0.5	①

教科書	配布資料及び田中繁/他監訳『モーターコントロール　研究室から臨床実践へ』医歯薬出版
参考文献	指定なし（適宜指示）
授業方法	PowerPointを用いた講義　教科書を用いた講義、実技
関連科目	
成績評価基準と方法	定期試験（100%）
その他 （学生へのメッセージ・履修上の留意点）	

2025（令和7） 年度　　講義計画（シラバス）

開講年次	3年後期	分野	専門	単位（時間）	1（30）	必須
科目名	理学療法特論Ⅰ	担当教員【◎は科目責任者】 ◎特論講師（専任・外部講師含む）				知・技 思・判
実務経験						
科目のねらい	国家試験対策として理学療法専門領域の対策および各専門講義の復習として本講義を実施する					
到達目標	①国家試験問題の傾向を理解することができる。 ②グループワークに積極的に取り組むことができる。					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	国家試験専門分野対策：中枢	0.5/0.5	①②
第2回		0.5/0.5	①②
第3回	国家試験専門分野対策：神経筋・神経疾患	0.5/0.5	①②
第4回		0.5/0.5	①②
第5回	国家試験専門分野対策：義肢・装具	0.5/0.5	①②
第6回		0.5/0.5	①②
第7回	国家試験専門分野対策：内部障害	0.5/0.5	①②
第8回		0.5/0.5	①②
第9回	国家試験専門分野対策：評価	0.5/0.5	①②
第10回		0.5/0.5	①②
第11回	国家試験専門分野対策：整形疾患	0.5/0.5	①②
第12回		0.5/0.5	①②
第13回	国家試験専門分野対策：リハ概論	0.5/0.5	①②
第14回		0.5/0.5	①②
第15回	国家試験テスト対策	0.5/0.5	①②

教科書	適宜、資料を配布する。
参考文献	指定なし（適宜指示）
授業方法	出席率%、講義態度
関連科目	
成績評価基準と方法	定期試験（95%）出席率5%
その他 （学生へのメッセージ・履修上の留意点）	復習を欠かさず実施すること。 特に国家試験にて配点率が高い分野の内容を専門家より実施してもらいます。しっり望んでください。

2025（令和7） 年度　　講義計画（シラバス）

開講年次	3年前期	分野	専門	単位（時間）	1（30）	必須
科目名	クリニカルリーズニング Ⅰ	担当教員【◎は科目責任者】 ◎木下　拓真				思・判
実務経験	○	理学療法士として臨床				
科目のねらい	本科カリキュラムにおいては、3年後期終了後に評価実習を実施する。本評価実習の到達目標は、理学療法対象者に対する適切な評価ができるようになることである。理学療法評価とは、対象者の全体像を把握した上で、解決可能な問題を論理的に抽出し、目標を設定し、治療プログラムを立案するまでの一連の過程を指す。本講義では、理学療法士として必要不可欠な評価プロセスを体系的に学び、3年後期終了後の評価実習に向けたポートフォリオを作成することを目的とする。					
到達目標	①理学療法評価の目的・評価方法・スクリーニング検査について説明できる。 ②理学療法評価を実施する時期について説明できる。 ③理学療法評価に基づく治療計画立案までのプロセスが説明できる。 ④理学療法実施に関わる情報の整理の仕方が説明でき、情報整理ができる。 ⑤理学療法プログラムの立案の仕方が説明できる。 ⑥理学療法の実施記録について説明できる。 ⑦診療ガイドラインについて説明できる。					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	オリエンテーション	0.5/0.5	①～⑦
第2回	1）情報の種類とその必要性を理解しよう！	0.5/0.5	
第3回	1）対象者の病態を把握するってどういうこと？	0.5/0.5	
第4回	1）対象者の活動を把握するってどういうこと？	0.5/0.5	
第5回	1）対象者の参加と環境・個人因子を把握してICF分類をしてみよう！	0.5/0.5	
第6回	2）対象者の疾患の病態・程度を各情報と検査結果を用いて説明してみよう！	0.5/0.5	
第7回	2）対象者の心身機能・構造、機能障害の要因を各情報と検査結果をもとに説明してみよう！	0.5/0.5	
第8回	2）対象者の活動・活動制限の要因を各情報と検査結果をもとに説明してみよう！	0.5/0.5	
第9回	2）対象者の参加・参加制約の要因を各情報と検査結果をもとに説明してみよう！	0.5/0.5	
第10回	2）対象者の健康状態・機能・活動・参加の要因について、環境・個人因子を交えて説明してみよう！	0.5/0.5	
第11回	2）検査結果の関連性（参加・参加制約の要因を各情報と検査結果をもとに説明してみよう！）	0.5/0.5	
第12回	3）対象者の主訴からその成り立ちを各情報・検査測定結果を用いて説明してみよう！	0.5/0.5	
第13回	3）対象者の予後（未来）を予想してみよう！	0.5/0.5	
第14回	3）対象者の問題点を抽出してみよう！	0.5/0.5	
第15回	4）対象者の目標を設定してみよう！	0.5/0.5	

教科書	指定なし（適宜配布）
参考文献	これまで学んだ基礎医学・評価学・疾患学・理学療法学のテキストと資料
授業方法	講義とグループワーク
関連科目	理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、理学療法評価学演習・実習、運動療法、物理療法、ADL、各種疾患学
成績評価基準と方法	学習ポートフォリオ・ペーパーテスト
その他 （学生へのメッセージ・履修上の留意点）	本講義では、これまでの1・2年次で学んだ知識を活用しながら、さらに理解を深めていきます。過去の学びが土台となるため、「少し不安がある」「復習が必要かも」と感じる部分があれば、ぜひこの講義を通じて積極的に補い、自信をつけていきましょう。学んできたことを活かし、新たなステップへ進む機会です。主体的に取り組み、成長を実感できる講義にしていきましょう！

2025（令和7） 年度　　講義計画（シラバス）

開講年次	3年後期	分野	専門	単位（時間）	1（30）	必須
科目名	クリニカルリーズニングⅡ	担当教員【◎は科目責任者】 ◎木下　拓真				思・判
実務経験	○	理学療法士として臨床				
科目のねらい	前期に開講するクリニカルリーズニングⅠでは、理学療法プロセスにおける目標設定までを学修する。本講義では、プロセスの続きにあたる治療プログラム立案とその実施に焦点を絞り講義を進めていく。					
到達目標	①対象者の状態に応じて適切な環境設定ができ、適切な説明ができる。 ②関節可動域制限の関連要因を評価し、運動療法を実施することができる。 ③筋力低下の関連要因を評価でき、運動療法を実施することができる。 ④疼痛の程度と関連要因を評価でき、理学療法を実施することができる。 ⑤バランス・平衡機能低下の程度と関連要因を評価でき、運動療法を実施できる。 ⑥筋緊張異常の程度と関連要因を評価でき、運動療法を実施することができる。 ⑦姿勢異常（臥位、座位、立位）に対する運動療法が実施できる。 ⑧起居移動動作能力低下に対する運動指導が実施できる。 ⑨セルフケアや自主練習の目的と必要性について説明できる。 ⑩患者・対象者の動機づけを引き出すために必要なポイントを説明できる。					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	オリエンテーション	0.5/0.5	
第2回	関節可動域制限を評価するために必要な知識の整理をしてみよう！	0.5/0.5	①②⑩
第3回	【実践】関節可動域制限に対する評価と治療とその記録（SOAP）	0.5/0.5	
第4回	筋力低下を評価するために必要な知識の整理をしてみよう！	0.5/0.5	①③⑩
第5回	【実践】筋力低下に対する評価と治療とその記録（SOAP）	0.5/0.5	
第6回	疼痛を評価するために必要な知識の整理をしてみよう！	0.5/0.5	①④⑩
第7回	【実践】疼痛に対する評価と治療とその記録（SOAP）	0.5/0.5	
第8回	運動麻痺を評価するために必要な知識の整理をしてみよう！	0.5/0.5	①⑩
第9回	【実践】運動麻痺に対する評価と治療とその記録（SOAP）	0.5/0.5	
第10回	筋緊張異常を評価するために必要な知識の整理をしてみよう！	0.5/0.5	①⑥⑩
第11回	【実践】筋緊張に対する評価と治療とその記録（SOAP）	0.5/0.5	
第12回	バランス・平行機能低下を評価するために必要な知識の整理をしてみよう！	0.5/0.5	①⑤⑩
第13回	【実践】バランスに対する評価と治療とその記録（SOAP）	0.5/0.5	
第14回	動作を評価するために必要な知識の整理をしてみよう！	0.5/0.5	①⑧⑩
第15回	【実践】動作に対する評価と治療とその記録（SOAP）	0.5/0.5	

教科書	指定なし（適宜配布）
参考文献	指定なし（適宜指示）
授業方法	グループワークを中心に実施する。
関連科目	理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、理学療法評価学演習・実習、運動療法、物理療法、ADL、各種疾患学
成績評価基準と方法	実技試験
その他 （学生へのメッセージ・履修上の留意点）	

2025（令和7） 年度　　講義計画（シラバス）

開講年次	3年前期	分野	専門	単位（時間）	1（30）	必須
科目名	義肢学	担当教員【◎は科目責任者】 ◎瀬野　大輔				知・技
実務経験	○	義肢装具士として臨床				
科目のねらい	義肢学は、四肢切断となった対象者が義肢を装着することで、切断前と同レベルの社会生活に戻ることを目指す学問です。この授業では主に下腿義足と大腿義足について講義を行います。3つのアライメントについては、学生の皆さんが自分で調べて発表していただくセミナー形式とします。 国家試験にもよく出題されますので、覚えるよりも理解することに重点を置いて進めていきます。					
到達目標	①下腿義足、大腿義足の各種ソケットについて理解できる。 ②下腿義足、大腿義足に使われる基本的パーツについて理解できる。 ③下腿義足の異常歩行について理解できる。 ④大腿義足の異常歩行について理解できる。 ⑤その他の義肢について理解できる。 ⑥義肢の種類を説明できる ⑦義肢の適応について説明できる ⑧義肢の適合性の確認について説明できる ⑨義肢のアライメント調整ができる					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	義肢学オリエンテーション	0.5/0.5	①②⑤⑥⑦
第2回	下腿義足について（ソケット、パーツ）	0.5/0.5	①②⑤⑥
第3回	大腿義足について（ソケット、パーツ）	0.5/0.5	①②⑤⑥
第4回	アライメントについて	0.5/0.5	①②⑤⑥
第5回	下腿義足ベンチアライメントセミナー	0.5/0.5	③⑧⑨
第6回	下腿義足スタティックアライメントセミナー	0.5/0.5	③⑧⑨
第7回	下腿義足ダイナミックアライメントセミナー	0.5/0.5	③⑧⑨
第8回		0.5/0.5	③⑧⑨
第9回	大腿義足ベンチアライメントセミナー	0.5/0.5	④⑧⑨
第10回	大腿義足スタティックアライメントセミナー	0.5/0.5	④⑧⑨
第11回		0.5/0.5	④⑧⑨
第12回	大腿義足ダイナミックアライメントセミナー	0.5/0.5	④⑧⑨
第13回		0.5/0.5	④⑧⑨
第14回		0.5/0.5	④⑧⑨
第15回	義肢学まとめ	0.5/0.5	①～⑨

教科書	義肢・装具学　高田治美　羊土社
参考文献	指定なし（適宜指示）
授業方法	講義とセミナー
関連科目	
成績評価基準と方法	筆記試験（60%）、セミナー（40%）
その他 （学生へのメッセージ・履修上の留意点）	セミナーでは、現象を観察して異常部分を察知し、解決策を発表していただきます。楽しい発表をお待ちしています。

2025（令和7） 年度　　講義計画（シラバス）

開講年次	3年前期	分野	専門	単位（時間）	1（30）	必須
科目名	装具学	担当教員【◎は科目責任者】 ◎瀬野　大輔				知・技
実務経験	○	義肢装具士として臨床				
科目のねらい	装具学は、四肢・体幹の様々な疾患による変形を防止し、治癒の促進を行い、機能障害を軽減するために使用する補助器具についての学問です。固定の基本的な考え方は3点固定ですが、様々なバリエーションが存在します。どの位置でどのような方法で固定を行うのがベストかを一緒に考えていきましょう。 また、仮想の症例から、どのような方法でアプローチするのがいいかを考えていきます。					
到達目標	①装具の基本的構造について理解できる。 ②疾患に対する特異的な装具について理解できる。 ③各種装具の3点固定について理解できる。 ④車いすや杖の特性、名称、操作方法について理解できる。 ⑤装具の種類を説明できる ⑥装具の適応について説明できる ⑦装具の適合性の確認について説明できる ⑧装具のアライメント調整ができる					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	装具学オリエンテーション	0.5/0.5	①
第2回	足底装具について	0.5/0.5	②③
第3回		0.5/0.5	②③
第4回	短下肢装具について	0.5/0.5	②③⑦
第5回	長下肢装具について	0.5/0.5	②③⑦⑧⑨
第6回		0.5/0.5	②③⑦⑧⑨
第7回	体幹装具について	0.5/0.5	②③
第8回		0.5/0.5	②③
第9回	上肢装具について	0.5/0.5	②③
第10回	車いす、杖について	0.5/0.5	④
第11回	車椅子の操作方法	0.5/0.5	④
第12回	車椅子の操作方法	0.5/0.5	④
第13回	キャスト実習	0.5/0.5	①②③
第14回	キャスト実習	0.5/0.5	①②③
第15回	義肢装具学まとめ	0.5/0.5	①～⑨

教科書	義肢・装具学　高田治美　羊土社
参考文献	指定なし（適宜指示）
授業方法	講義と実技
関連科目	
成績評価基準と方法	筆記試験（100%）
その他 （学生へのメッセージ・履修上の留意点）	装具学は覚えることが多いのですが、出題の多い下肢装具を中心に授業を進めます。異常歩行に対してどのようなアプローチをするべきか、一緒に考えましょう。

2025（令和7） 年度　　講義計画（シラバス）

開講年次	3年前期	分野	専門	単位（時間）	1（30）	必須
科目名	運動器系理学療法治療学	担当教員【◎は科目責任者】 ◎東山　学史				知・技
実務経験	○	病院勤務（理学療法士）				
科目のねらい	「運動器」とは、筋、腱、靭帯、骨、関節、神経（中枢、末梢「運動・感覚」）、脈管系などの身体運動にかかわるさまざまな組織・器官によって構成される機能的連合を指す。これら運動器系の障害は日常生活活動の低下ならびに生活の質の低下を引き起こす主な要因になりやすい。本講義では、この運動器障害に対しての各種評価で得られた情報を分析し、必要な治療を推察・展開していくための知識を身に付ける。					
到達目標	①整形外科で扱う運動器の疾病や外傷の病態、治療が理解できるようになる。 ②運動器の機能障害が日常生活活動や生活の質に及ぼす影響を理解し、理学療法を展開できるようになる。 ③骨関節障害の一般的疾患について説明できる ④骨関節障害の一般的疾患の疫学、予後について説明できる ⑤骨関節障害の一般的疾患の病因、症候について説明できる ⑥骨関節障害の一般的疾患の検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について説明できる ⑦骨関節障害の一般的疾患のリハビリテーション医療について説明できる ⑧骨関節疾患にかかる理学療法が実施できる					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	総論① 運動器とは？	0.5/0.5	
第2回	総論② 組織修復・治癒過程	0.5/0.5	
第3回	各論① 骨折～上肢～	0.5/0.5	
第4回	各論② 骨折～下肢～	0.5/0.5	
第5回	各論③ 変形性股関節症	0.5/0.5	
第6回	各論④ 変形性膝関節症	0.5/0.5	
第7回	各論⑤ スポーツ損傷・外傷	0.5/0.5	
第8回	各論⑥ スポーツ損傷・外傷	0.5/0.5	
第9回	各論⑦ 肩関節周囲炎	0.5/0.5	
第10回	各論⑧ 腱板損傷	0.5/0.5	
第11回	各論⑨ 切断（断端形成、義足チェックアウトなど）	0.5/0.5	
第12回	各論⑩ 切断（断端形成、義足チェックアウトなど）	0.5/0.5	
第13回	各論⑪ 脊椎疾患	0.5/0.5	
第14回	各論⑫ 腰痛症	0.5/0.5	
第15回	まとめ	0.5/0.5	

教科書	加藤浩/編『運動器障害理学療法学』MEDICAL VIEW
参考文献	山嵜勉/編『整形外科理学療法の理論と実際』MEDICAL VIEW 瀧田勇二/著『リハで読むべき運動器画像』MEDICAL VIEW
授業方法	講義（グループワーク、実技提示）、（Case study）
関連科目	
成績評価基準と方法	各回毎の小テスト（30%）、筆記試験（65%）、出席点（5%）
その他 （学生へのメッセージ・履修上の留意点）	・予め項目に見合った整形外科学の復習を行っておくこと。 ・実技の際には、動きやすい服装で臨むこと。（事前アナウンスあり）

2025（令和7） 年度　　講義計画（シラバス）

開講年次	3年後期	分野	専門	単位（時間）	1（30）	必須
科目名	運動器系理学療法治療学実習	担当教員【◎は科目責任者】 ◎東山　学史				知・技
実務経験	○	病院勤務（理学療法士）				
科目のねらい	臨床現場では、同じ疾患であってもでてくる障害は千差万別である。そのため疾患にとらわれず、目の前の患者様に見合った治療を展開していく必要がある。 本講義では、基本的な治療学の知識を基に、一人ひとりの患者様においての治療選択や様々な環境によっての治療方法の選択が行えるようになることを目的とする。安全性を担保した中で、より効果的な治療を行うためにはどうすればよいか？を考え実践していく。					
到達目標	①疾患・術式によるリスクを考慮し、適切な治療の選択（実践）ができるようになる。 ②姿勢・肢位の変化に対しても、目的とした筋群へ適切なアプローチができるようになる。 ③個別性を理解し、その後の日常生活活動・生活の質に結びつく治療を組み立てることができる。 ④骨関節障害の一般的疾患について説明できる ⑤骨関節障害の一般的疾患の疫学、予後について説明できる ⑥骨関節障害の一般的疾患の病因、症候について説明できる ⑦骨関節障害の一般的疾患の検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について説明できる ⑧骨関節障害の一般的疾患のリハビリテーション医療について説明できる					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	オリエンテーション（到達目標の確認・成績判定について）	0.5/0.5	
第2回	運動器系国家試験問題復習・Worksheet説明と実践	0.5/0.5	
第3回	各論①骨折患者に対する治療展開（足部・足関節を中心に）	0.5/0.5	
第4回		0.5/0.5	
第5回	各論②変形性関節症患者に対する治療展開（膝OAを中心に）	0.5/0.5	
第6回		0.5/0.5	
第7回	各論③スポーツ外傷・障害患者に対する治療展開（ACLRを中心に）	0.5/0.5	
第8回		0.5/0.5	
第9回	各論④脊柱疾患患者に対する治療展開（腰椎椎間板ヘルニアを中心に）	0.5/0.5	
第10回		0.5/0.5	
第11回	各論①～④をもとにした、精神運動領域（評価・治療技術）評価期間	0.5/0.5	
第12回		0.5/0.5	
第13回		0.5/0.5	
第14回		0.5/0.5	
第15回	実技試験まとめ（傾向と対策）	0.5/0.5	

教科書	加藤浩/編『運動器障害理学療法学』MEDICAL VIEW
参考文献	山嵜勉/編『整形外科理学療法の理論と実際』MEDICAL VIEW 瀧田勇二/著『リハで読むべき運動器画像』MEDICAL VIEW
授業方法	実技、グループワーク、Case study
関連科目	理学療法評価学演習、理学療法評価学実習
成績評価基準と方法	実技試験（50%）、課題（提出・内容）（45%）、出席点（5%）
その他 （学生へのメッセージ・履修上の留意点）	・予め項目に見合った整形外科学の復習を行っておくこと。 ・実技の際には、動きやすい服装で臨むこと。（事前アナウンスあり）

2025(令和7) 年度　　講義計画(シラバス)

開講年次	3年前期	分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	中枢神経系理学療法治療学	担当教員【◎は科目責任者】 ◎相星　裕生				知・技
実務経験	○	病院勤務(理学療法士)				
科目のねらい	脳卒中に対する理学療法において、機能障害、能力障害、また精神障害、それぞれの関連性(因果関係)を分析し、介入することが重要である。そのためには標準化された評価指標(アウトカム)を用いて、効果判定することが非常に重要である。本講義ではできる限り、科学的根拠、エビデンスに基づく、しかも個人の技能レベルに大きく左右されない、いうなれば誰が行おうがある程度の効果を出せる実践的理学療法評価、介入方法を学ぶ。					
到達目標	①脳卒中概要、病態、薬剤治療の最先端、理学療法評価、治療知識学習を知り、実践できうる知識基盤を構築する。 ②中枢神経の障害を引き起こす一般疾患について説明できる ③中枢神経疾患にかかる疫学、予後について説明できる ④病因、症候について説明できる ⑤検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑥リハビリテーション医療について説明できる ⑦中枢神経疾患にかかる理学療法が実施できる					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	脳卒中　概要	0.5/0.5	①-⑦
第2回	脳卒中　病態と治療	0.5/0.5	①-⑦
第3回	脳卒中　病態と治療　ガイドライン	0.5/0.5	①-⑦
第4回	脳卒中　急性期(画像診断　リスク管理　治療)	0.5/0.5	①-⑦
第5回	脳卒中　急性期(画像診断　リスク管理　治療)	0.5/0.5	①-⑦
第6回	脳卒中　亜急性期の脳卒中リハビリテーション	0.5/0.5	①-⑦
第7回	脳卒中　亜急性期の脳卒中リハビリテーション	0.5/0.5	①-⑦
第8回	脳卒中　亜急性期の脳卒中リハビリテーション	0.5/0.5	①-⑦
第9回	脳卒中　回復期(画像診断、EBM、装具療法、筋電図評価)	0.5/0.5	①-⑦
第10回	脳卒中　回復期(画像診断、EBM、装具療法、筋電図評価)	0.5/0.5	①-⑦
第11回	脳卒中　回復期(画像診断、EBM、装具療法、筋電図評価)	0.5/0.5	①-⑦
第12回	脳卒中　回復期(画像診断、EBM、装具療法、筋電図評価)	0.5/0.5	①-⑦
第13回	高次機能障害に対する評価と治療	0.5/0.5	①-⑦
第14回	高次機能障害に対する評価と治療	0.5/0.5	①-⑦
第15回	テスト対策講義	0.5/0.5	

教科書	指定なし(適宜配布)
参考文献	指定なし(適宜指示)
授業方法	講義、実技
関連科目	解剖学Ⅲ、脳神経外科学、中枢神経系理学療法治療学実習
成績評価基準と方法	筆記試験
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)	実技の際には、動きやすい服装で臨むこと。

2025（令和7） 年度　　講義計画（シラバス）

開講年次	3年後期	分野	専門	単位（時間）	1（30）	必須
科目名	中枢神経系理学療法治療学実習	担当教員【◎は科目責任者】 ◎相星　裕生				知・技
実務経験	○	病院勤務（理学療法士）				
科目のねらい	脳卒中に対する理学療法において、機能障害、能力障害、また精神障害、それぞれの関連性（因果関係）を分析し、介入することが重要である。そのためには標準化された評価指標（アウトカム）を用いて、効果判定することが非常に重要である。本講義ではできる限り、科学的根拠、エビデンスに基づく、しかも個人の技能レベルに大きく左右されない、いうなれば誰が行おうがある程度の効果を出せる実践的理学療法評価、介入方法を学ぶ。					
到達目標	①脳卒中概要、病態、薬剤治療の最先端、理学療法評価、治療方法を実践的に学ぶ。 ②中枢神経の障害を引き起こす一般疾患について説明できる ③中枢神経疾患にかかる疫学、予後について説明できる ④病因、症候について説明できる ⑤検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について説明できる ⑥リハビリテーション医療について説明できる ⑦中枢神経疾患にかかる理学療法が実施できる					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	装具選定（治療用装具、生活用装具,GJC）	0.5/0.5	①-⑦
第2回	装具選定（治療用装具、生活用装具,GJC）	0.5/0.5	①-⑦
第3回	歩行再建のリハビリテーション	0.5/0.5	①-⑦
第4回	歩行再建のリハビリテーション	0.5/0.5	①-⑦
第5回	装具療法　短下肢、長下肢 （SHB ダブルクレンザック、KAFO　ゲイトイノベーション）	0.5/0.5	①-⑦
第6回	装具療法　短下肢、長下肢 （SHB ダブルクレンザック、KAFO　ゲイトイノベーション）	0.5/0.5	①-⑦
第7回	動画ワーク①	0.5/0.5	①-⑦
第8回	動画ワーク②	0.5/0.5	①-⑦
第9回	痙縮講義	0.5/0.5	①-⑦
第10回	痙縮に対する理学療法	0.5/0.5	①-⑦
第11回	症例検討1 ワーク	0.5/0.5	①-⑦
第12回	症例検討2 ワーク	0.5/0.5	①-⑦
第13回	症例検討　実演	0.5/0.5	①-⑦
第14回	症例検討　実演	0.5/0.5	①-⑦
第15回	治療内容プレゼンテーション	0.5/0.5	①-⑦

教科書	指定なし（適宜配布）
参考文献	指定なし（適宜指示）
授業方法	講義、実技
関連科目	
成績評価基準と方法	授業態度　口頭にて当てますのでその回答の質 筆記試験（45%）、課題（45%）
その他 （学生へのメッセージ・履修上の留意点）	実技の際には、動きやすい服装で臨むこと。

2025（令和7） 年度　　講義計画（シラバス）

開講年次	3年後期	分野	専門	単位（時間）	1（30）	必須
科目名	小児系理学療法治療学	担当教員【◎は科目責任者】 ◎上杉　雅之				知・技
実務経験	○	療育園勤務（理学療法士）				
科目のねらい	小児理学療法は単にこどもの障害に対する治療だけにとどまらず、それを支援する保護者をはじめとする支援者への指導等も含めて支援することが重要である。そして、対象疾患の概略、障害像、問題点などについて理解を深め評価・治療を行うことができる。					
到達目標	①障害児への理学療法を実施できる ②脳性麻痺や小児整形疾患などの各小児疾患について理解する ③障害児への理学療法の評価・治療について学習する ④小児の障害を引き起こす一般疾患について説明できる ⑤小児の障害を引き起こす一般疾患の疫学、予後について説明できる ⑥小児の障害を引き起こす一般疾患の病因、症候について説明できる ⑦小児の障害を引き起こす一般疾患の検査（画像・生理検査を含む）、評価、治療について説明できる ⑧小児の障害を引き起こす一般疾患のリハビリテーション医療について説明できる ⑨発達にかかる理学療法について説明できる ⑩脳性麻痺の概論					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	脳性麻痺の概論	0.5/0.5	⑩
第2回	脳性麻痺(SD)	0.5/0.5	①②③⑥⑦
第3回	脳性麻痺(SQ)	0.5/0.5	①②③⑥⑦
第4回	脳性麻痺(SH)	0.5/0.5	①②③⑥⑦
第5回	脳性麻痺(AT)	0.5/0.5	①②③⑥⑦
第6回	重症児	0.5/0.5	①②③⑥⑦
第7回	小児整形（二分脊椎）	0.5/0.5	②③⑤⑥⑦
第8回	小児整形（ペルテス病等）	0.5/0.5	②③⑤⑥⑦
第9回	筋ジス	0.5/0.5	①②③
第10回	ダウン症	0.5/0.5	①②③
第11回	NICU	0.5/0.5	①④⑤⑥⑦
第12回	発達障害	0.5/0.5	⑨
第13回	評価	0.5/0.5	③⑦
第14回		0.5/0.5	③⑦
第15回	地域リハ・まとめ	0.5/0.5	⑧⑩

教科書	上杉雅之/監『イラストでわかる小児理学療法』医歯薬出版
参考文献	杉雅之/他監訳『脳性麻痺のクリニカルリーズニングアプローチ』医歯薬出版他
授業方法	講義を中心に行うが、できるだけ視聴覚資料を用いて理解を図るようにする。
関連科目	人間発達学、小児科学
成績評価基準と方法	授業態度（10%）と試験（90%）を総合的に判定して行う。
その他 （学生へのメッセージ・履修上の留意点）	実技の際には、動きやすい服装で臨むこと。

2025(令和7) 年度　　講義計画(シラバス)

開講年次	3年前期	分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	呼吸器系理学療法治療学	担当教員【◎は科目責任者】 ◎永井　佑典				知・技
実務経験	○	理学療法士として臨床				
科目のねらい	呼吸器疾患(COPD，間質性肺炎，結核性肺炎)，外科手術後(胸部・腹部)，ICU管理，人工呼吸器管理患者に対する理学療法					
到達目標	①呼吸器疾患のリハビリテーション医療について説明できる ②呼吸器疾患の病態、症候について説明できる ③呼吸器疾患の疫学、予後について説明できる ④呼吸器疾患の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑤呼吸器疾患に対する基本的理学療法評価法について理解する ⑥呼吸器疾患に対する基本的呼吸理学療法，運動療法、呼吸リハビリテーションプログラムに関して理解する ⑦呼吸器疾患，外科手術後，ICU管理，人工呼吸器管理患者の病態・障害を理解する ⑧呼吸器疾患，外科手術後，ICU管理，人工呼吸器管理患者の理学療法評価・プログラムを立案できる ⑨吸引がモデルを用いて実施できる					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	呼吸リハビリテーション概論　呼吸器の解剖学・生理学・運動学	0.5/0.5	①
第2回	呼吸不全と呼吸障害	0.5/0.5	②
第3回	呼吸リハビリテーションとは	0.5/0.5	①②③
第4回		0.5/0.5	①②③
第5回	呼吸理学療法評価	0.5/0.5	④⑤
第6回	呼吸理学療法評価(実技)	0.5/0.5	④⑤
第7回	基本的呼吸理学療法プログラム	0.5/0.5	⑥
第8回	呼吸器患者に対する運動療法	0.5/0.5	⑥
第9回	呼吸器疾患(COPD，間質性肺炎，結核性肺炎)に対する理学療法	0.5/0.5	⑦⑧
第10回		0.5/0.5	⑦⑧
第11回	外科手術後(胸部・腹部)に対する理学療法	0.5/0.5	⑦⑧
第12回		0.5/0.5	⑦⑧
第13回	ICU管理，人工呼吸器管理患者に対する理学療法	0.5/0.5	⑦⑧
第14回		0.5/0.5	⑦⑧
第15回	吸引の概要と実際(実技)	0.5/0.5	⑨

教科書	『病気がみえる　vol.4 呼吸器』 MEDIC MEDIA
参考文献	内部障害理理学療法学 呼吸　中山書店 呼吸リハビリテーションマニュアル ―運動療法― 第2版　照林社 呼吸リハビリテーションに関するステートメント
授業方法	講義，グループディスカッション，実技
関連科目	内科学，循環器系理学療法治療学
成績評価基準と方法	筆記試験(100%，記号＋論述)
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)	実技の時はジャージ，Tシャツ着用

2025(令和7) 年度　　講義計画(シラバス)

開講年次	3年前期	分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	代謝循環器系理学療法治療学	担当教員【◎は科目責任者】 ◎梅田　陽平				知・技
実務経験	○	理学療法士として臨床				
科目のねらい	今後益々高齢化社会が進行していく中で、増加傾向の循環器領域・代謝領域でのPTの意義、役割、基本的知識などを学ぶ。					
到達目標	①循環器領域・代謝領域でのPTの意義、役割、基本的知識などを理解する。 ②代表的な循環器疾患の病態を考慮した評価・治療について説明できる ③心電図を診て対応を判断することができる ④運動負荷試験の結果に基づいた運動処方を行うことができる ⑤代謝障害、腎機能障害の病態を考慮した評価・治療について説明ができる ⑥一般的な循環器・代謝疾患について説明できる ⑦一般的な循環器・代謝疾患の疫学、予後について説明できる ⑧一般的な循環器・代謝疾患の病因、症候について説明できる ⑨一般的な循環器・代謝疾患の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑩一般的な循環器・代謝疾患のリハビリテーション医療について説明できる					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	はじめに・オリエンテーション　循環器理学療法について	0.5/0.5	①②④⑥
第2回	循環器理学療法について　運動療法の効果など	0.5/0.5	①②④⑥
第3回	運動療法の効果など　リスク管理、フィジカルアセスメント 心電図の復習	0.5/0.5	②③④
第4回	リスク管理　フィジカルアセスメント	0.5/0.5	①②③④⑥
第5回	心不全の理学療法	0.5/0.5	①②④-⑦ ⑨⑩
第6回	心不全の理学療法	0.5/0.5	①②④-⑦ ⑨⑩
第7回	弁膜症の理学療法	0.5/0.5	①②④ ⑥-⑩
第8回	大動脈疾患の理学療法	0.5/0.5	①②④ ⑥-⑩
第9回	虚血性心疾患の理学療法	0.5/0.5	①②③④ ⑥-⑩
第10回	心電図の診かた	0.5/0.5	①②③④ ⑥-⑩
第11回	末梢動脈疾患、静脈疾患の理学療法	0.5/0.5	①②④ ⑥-⑩
第12回	代謝障害(糖尿病)の理学療法	0.5/0.5	①②③ ⑤-⑩
第13回	代謝障害(糖尿病)の理学療法	0.5/0.5	①②③ ⑤-⑩
第14回	腎機能障害の理学療法	0.5/0.5	①②③ ⑤-⑩
第15回	透析の理学療法法　振り返り	0.5/0.5	①②③ ⑤-⑩

教科書	指定なし(適宜配布)
参考文献	病気がみえるシリーズ　循環器や糖尿病などを使用予定
授業方法	講義、実技、学生間のディスカッション
関連科目	内科学Ⅰ・Ⅱ
成績評価基準と方法	①確認テスト100点　②定期テスト100点 ①+②　合計200点　①と②の合計点120点以上を合格点とする
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)	基礎となる解剖学・生理学・内科学・運動生理学を復習しておくこと。

2025(令和7) 年度　　講義計画(シラバス)

開講年次	3年後期	分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	神経・筋疾患系理学療法治療学	担当教員【◎は科目責任者】 ◎久我　宜正、喜多　頼広、山崎　聖也、荻野　悟				知・技
実務経験						
科目のねらい	代表的な神経筋疾患(パーキンソン病、パーキンソニズム、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、皮膚筋炎、多発性筋炎、大脳皮質基底核変性症、筋ジストロフィー、多発性硬化症、ギランバレー症候群など)に関する基礎および臨床の知見を紹介し、座学を中心とし、実際の症例の動画を教材として、実技やグループディスカッションを行う。					
到達目標	①神経筋疾患患者の病態を理解する。 ②神経筋疾患患者の障害構造理解し、自分で整理できる状態になる。 ③神経筋疾患患者に必要な理学療法評価を把握し、実際に評価できるようになる。 ④神経筋疾患患者に対する理学療法介入のエビデンスを知り、介入方法を選択できるようになる。 ⑤神経筋疾患患者に対する理学療法士として関わり方を理解する。 ⑥一般的な神経・筋疾患について説明できる ⑦一般的な神経・筋疾患の疫学、予後について説明できる ⑧一般的な神経・筋疾患の病因、症候について説明できる ⑨一般的な神経・筋疾患の検査(画像・生理検査を含む)、診断、治療について説明できる ⑩一般的な神経・筋疾患のリハビリテーション医療について説明できる					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	神経筋疾患総論	0.5/0.5	④
第2回	ニューロリハビリテーション総論	0.5/0.5	⑤
第3回	パーキンソン病の病態理解	0.5/0.5	①
第4回	パーキンソン病の理学療法評価	0.5/0.5	①
第5回	パーキンソン病の理学療法介入	0.5/0.5	①
第6回	パーキンソニズム病の理学療法	0.5/0.5	②
第7回	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の理学療法	0.5/0.5	③
第8回		0.5/0.5	③
第9回	筋萎縮性側索硬化症の理学療法	0.5/0.5	③
第10回	筋萎縮委縮性側索硬化症の理学療法	0.5/0.5	③
第11回	皮膚筋炎・多発性筋炎の理学療法	0.5/0.5	③
第12回	筋ジストロフィーの理学療法	0.5/0.5	③
第13回	多発性硬化症の理学療法	0.5/0.5	③
第14回	ギランバレー症候群の理学療法	0.5/0.5	③
第15回	まとめ	0.5/0.5	⑥

教科書	指定なし(適宜配布)
参考文献	小森哲夫/監『神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ』メジカルビュー社 丸山仁司/編『神経障害系理学療法』医歯薬出版 Janet Carr/他著『ニューロロジカルリハビリテーション』 医歯薬出版、その他、適宜講義中に提示.
授業方法	講義を中心とし、グループ討議を取り入れる。
関連科目	神経内科学
成績評価基準と方法	筆記試験(100%)
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)	

2025（令和7） 年度　　講義計画（シラバス）

開講年次	3年後期	分野	専門	単位（時間）	1（30）	必須
科目名	脊髄損傷理学療法治療学	担当教員【◎は科目責任者】 ◎宮垣さやか				知・技
実務経験	○	理学療法士として臨床				
科目のねらい	脊髄損傷の病態と評価、理学療法の実際について学ぶ。脊髄損傷者の日常生活動作（ADL）は、資料に加え、動画を用いて解説する。脊髄損傷の評価と理学療法の実際は、抗議と実技を通して実践的なものとして臨床に役立てられることを目的とする。					
到達目標	①脊髄損傷の病態・評価・治療方法やプログラムが理解できる。 ②損傷レベル別の理学療法、日常生活自立度が説明できる。 ③脊髄損傷に關係する車椅子や自助具、家屋改修が理解できる。					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	脊髄損傷の解剖学、病態	0.5/0.5	①
第2回	脊髄損傷の随伴症と合併症	0.5/0.5	①
第3回	脊髄損傷の急性期の理学療法	0.5/0.5	①
第4回	急性期の理学療法と評価（ザンコリー、ASIA/ISNCSCI、坐位バランス、筋緊張、可動域など）	0.5/0.5	①
第5回	脊髄損傷のADL到達目標　基本動作	0.5/0.5	②
第6回	回復期の理学療法　（基本動作　起居動作の演習）	0.5/0.5	①②
第7回	回復期の理学療法（車いす　車いす動作　移乗動作など）	0.5/0.5	①②
第8回	回復期の理学療法（ADL　環境設定など）	0.5/0.5	①②
第9回	脊髄損傷者の住宅改修や社会資源の利用（自助具など）	0.5/0.5	③
第10回	脊髄不全損傷の理学療法歩行具の使用など）	0.5/0.5	①②
第11回	脊髄不全損傷の理学療法	0.5/0.5	①②
第12回	グループワーク①	0.5/0.5	①②③
第13回	グループワーク②	0.5/0.5	①②③
第14回	グループワーク③	0.5/0.5	①②③
第15回	グループワーク④	0.5/0.5	①②③

教科書	プリント中心
参考文献	脊髄損傷理学療法マニュアル第3版
授業方法	座学と実技
関連科目	解剖学，生理学、整形外科学
成績評価基準と方法	試験
その他 （学生へのメッセージ・履修上の留意点）	

2025（令和7） 年度　　講義計画（シラバス）

開講年次	3年後期	分野	専門	単位（時間）	1（30）	必須
科目名	老年期理学療法治療学	担当教員【◎は科目責任者】 ◎佐藤忠輝				知・技
実務経験	○	理学療法士として臨床				
科目のねらい	老年期理学療法治療学では、老年症候群を背景とした加齢に伴う身体機能の多様な変化と、高齢者に対する運動療法の効果を整理し、高齢者の健康管理におけるこれからの理学療法士の役割を学習することを目的とする。					
到達目標	①老年期障害の一般的疾患について説明できる ②老年期障害の一般的疾患の疫学、予後について説明できる ③老年期障害の一般的疾患の病因、症候について説明できる ④老年期障害の一般的疾患の検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について説明できる ⑤老年期障害の一般的疾患のリハビリテーション医療について説明できる					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	導入、ケース討論	0.5/0.5	①～⑤
第2回	高齢者とリハ医療（急性期・回復期・維持期）	0.5/0.5	①⑤
第3回	高齢者とリハ医療（サルコペニア・フレイル）	0.5/0.5	①②③⑤
第4回	高齢者の運動機能	0.5/0.5	①～⑤
第5回	筋力トレーニング	0.5/0.5	①⑤
第6回	転倒、骨折	0.5/0.5	①～⑤
第7回	骨粗鬆症、栄養障害	0.5/0.5	①～⑤
第8回	ケース討論	0.5/0.5	①～⑤
第9回	高齢者とリハ医療（在宅）	0.5/0.5	①⑤
第10回	在宅における転倒	0.5/0.5	①～⑤
第11回	認知症、うつ状態	0.5/0.5	①②③⑤
第12回	摂食嚥下障害	0.5/0.5	①～⑤
第13回	誤嚥性肺炎	0.5/0.5	①～⑤
第14回	ターミナルケア、緩和ケア	0.5/0.5	①～⑤
第15回	ケース討論、まとめ	0.5/0.5	①～⑤

教科書	島田裕之/編『高齢者理学療法学』医歯薬出版株式会社
参考文献	指定なし（適宜指示）
授業方法	講義、ディスカッション
関連科目	
成績評価基準と方法	筆記試験（100%）、その他授業内でのディスカッション、授業態度
その他 （学生へのメッセージ・履修上の留意点）	

2025(令和7) 年度　　講義計画(シラバス)

開講年次	3年前期	分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	理学療法治療学特講Ⅰ	担当教員【◎は科目責任者】 ◎藤井　隆太				知・技
実務経験	○	病院勤務(理学療法士)				
科目のねらい	これまでの基礎医学の知識を活かして、四肢・体幹の「治療学」としての理学療法を学びます。我々が人に「ふれる」ことが何を意味しているかを理解した上で、関節モビライゼーションを中心に健常者の治療を進めていきます。治療の即時効果を実体験するとともにその理論を説明できるようにします。					
到達目標	①四肢・体幹の構造と機能を理解し、各関節運動が行える。 ②各関節の可動域の制限因子を説明できる。 ③関節運動を行う上での疼痛メカニズムを説明できる。 ④ヒトの身体に触れることに対する倫理観を説明できる。					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	「さわる」と「ふれる」の違い	0.5/0.5	④
第2回	触れ方が人にどう影響を及ぼすか	0.5/0.5	④
第3回	徒手療法のための疼痛学①	0.5/0.5	③
第4回	徒手療法のための疼痛学②	0.5/0.5	③
第5回	関節モビライゼーションの基礎①	0.5/0.5	①②
第6回	関節モビライゼーションの基礎②	0.5/0.5	①②
第7回	仙腸関節・腰椎椎間関節	0.5/0.5	①②
第8回	胸椎椎間関節	0.5/0.5	①②
第9回	肋椎関節、胸肋関節	0.5/0.5	①②
第10回	頸椎椎間関節	0.5/0.5	①②
第11回	下肢関節	0.5/0.5	①②
第12回	上肢関節	0.5/0.5	①②
第13回	実技練習①	0.5/0.5	①②
第14回	実技練習②	0.5/0.5	①②
第15回	実技練習③	0.5/0.5	①②

教科書	①林典雄/執　運動療法のための機能解剖学的触診技術　上肢 ②林典雄/執　運動療法のための機能解剖学的触診技術　下肢・体幹
参考文献	山口　創 / 手の治癒力　草思社文庫 伊藤　亜紗 / 手の倫理　講談社選書メチエ 脇元　幸一・白石　豊 / スポーツ選手のための心身調律プログラム　大修館書店
授業方法	出席率・授業態度、終講レポート
関連科目	リハビリテーション医学、解剖学Ⅰ・解剖学演習・体表解剖学・運動学・生理学
成績評価基準と方法	: 出席率・授業態度、終講レポート
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)	各関節の構造と機能、体表からの骨指標や関節の触診については、教科書を中心にこれまで学んだことを事前学習しておいてください。

2025(令和7) 年度　　講義計画(シラバス)

開講年次	3年前期	分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	福祉住環境論	担当教員【◎は科目責任者】 ◎谷口　昌宏				知・技
実務経験	○	介護、福祉系、企業勤務				
科目のねらい	障がい者・高齢者にとって生活しやすい住環境とはどういうものかと生活環境整備における理学療法士の役割について学ぶ。そのために必要な諸制度と住宅改修の基礎知識、福祉用具の選び方・使い方について学ぶ。					
到達目標	①介護保険制度を主とする諸制度について理解する。 ②身体状況に応じた適切な生活環境整備(福祉用具・住宅改修)について、ご本人・介護者・他職種にプランの提示も含めた助言ができるようになる。 ③バリアフリーの概念について説明できる。 ④ユニバーサルデザインの概念について説明できる。 ⑤バリアフリー、ユニバーサルデザインに関係する法制度について説明できる。 ⑥福祉用具の種類を説明できる ⑦福祉用具の適用について説明できる					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	福祉住環境論総論と理学療法士の役割 (1)生活環境学の考え方	0.5/0.5	
第2回	(2)生活環境の特徴と課題 (3)生活環境整備に関する法的制度	0.5/0.5	
第3回	(4)生活環境整備の進め方 (5)(6)生活環境整備の基本①②	0.5/0.5	
第4回	(7)玄関・アプローチ (8)廊下・階段 (9)トイレ (10)浴室・脱衣室の環境整備	0.5/0.5	
第5回	(11)台所・食堂 (12)居室・寝室の環境整備(13)(14)疾患別環境整備	0.5/0.5	
第6回	福祉用具のまとめ	0.5/0.5	
第7回	(15)建築図面の書き方・読み方	0.5/0.5	
第8回	住宅改修のまとめ	0.5/0.5	
第9回	福祉用具展示場の見学(エイジレスC.)	0.5/0.5	
第10回	福祉用具展示場の見学(エイジレスC.)	0.5/0.5	
第11回	実技演習「福祉用具を活用した介助実技」	0.5/0.5	
第12回	グループ演習「住宅改修案の検討」のための事例の提示(DVD・家屋図面)	0.5/0.5	
第13回	グループ演習①「住宅改修案の検討」	0.5/0.5	
第14回	グループ演習②「住宅改修案の検討」	0.5/0.5	
第15回	住宅改修案のグループ発表	0.5/0.5	

教科書	細田多穂/編『生活環境学テキスト』南江堂
参考文献	『初めて学ぶ福祉住環境』市ヶ谷出版社、『福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト』東京商工会議所
授業方法	講義・グループ演習
関連科目	
成績評価基準と方法	筆記試験・レポート・グループ発表
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)	・福祉用具展示場見学はATCエイジレスセンター(大阪市住之江区南港北)で行う。 ・「福祉用具を活用した介助実技」は実技ができる服装で出席(白衣でなくてよい)。

2025(令和7) 年度　　講義計画(シラバス)

開講年次	3年後期	分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	地域理学療法	担当教員【◎は科目責任者】 ◎木村　彩子				知・技
実務経験	○	病院勤務(理学療法士)として臨床				
科目のねらい	地域における理学療法の展開を、講義およびワークにて学習する 医療機関内だけでなく、実生活の場で対象者支援を行うために必要な基本的知識を習得する。					
到達目標	①地域における理学療法士の役割について説明ができる。 ②地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割について説明ができる ③入所・通所における理学療法について説明ができる ④訪問における理学療法について説明ができる ⑤介護予防、健康維持・増進における理学療法士の役割について説明ができる。 ⑥緩和ケア・終末期医療における理学療法士の役割について説明ができる。 ⑦学校保健及び特別支援教育における理学療法士の役割について説明ができる ⑧災害時の支援、国際支援、スポーツ活動支援、産業理学療法等医療機関以外での理学療法士の役割について説明ができる。					

回数	講義計画	予/復時間	内容
第1回	地域リハビリテーションと理学療法について	0.5/0.5	①
第2回	地域包括ケアシステムについて	0.5/0.5	②
第3回	地域を支える制度や他職種について	0.5/0.5	①
第4回	入所施設における理学療法	0.5/0.5	③
第5回	通所施設における理学療法	0.5/0.5	③
第6回	訪問における理学療法	0.5/0.5	④
第7回	介護予防・健康増進について	0.5/0.5	⑤
第8回	事例検討	0.5/0.5	①～⑤
第9回	緩和ケア・終末医療における理学療法	0.5/0.5	⑥
第10回	学校保健及び特別支援教育における理学療法	0.5/0.5	⑦
第11回	産業理学療法について	0.5/0.5	⑧
第12回	災害・国際支援について	0.5/0.5	⑧
第13回	スポーツ活動支援について	0.5/0.5	⑧
第14回	事例検討	0.5/0.5	①～⑧
第15回	まとめ	0.5/0.5	①～⑧

教科書	浅川育世編　ビジュアルレクチャー　地域理学療法学　第3版　医歯薬出版
参考文献	牧田光代・他 『標準理学療法学　地域理学療法学』 医学書院 crosslink理学療法学テキスト『地域理学療法学』MRDICAL VIEW
授業方法	講義形式、グループワーク
関連科目	
成績評価基準と方法	小テスト、課題、筆記試験を総合的に判断し評価する
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)	多様な対象者に対する関わりについて学びます。そのため、各ステージにより必要な知識が異なります。 適宜、予習や復習は行ってください。

2025（令和7） 年度　　講義計画（シラバス）

開講年次	3年通年	分野	専門	単位（時間）	5（225）	必須
科目名	臨床評価実習	担当教員【◎は科目責任者】 ◎岡林豊、相星裕生、井口祥平、井口奈保美、市田修一、大井直樹、木下拓真、木村彩子、久保明裕、清水浩之、藤井隆太、松村明保				知・技・思判・表・態

実務経験	
科目のねらい	本講義では、診療録などから間接的情報収集や対象者への直接的情報収集（検査測定など）を通して、対象者の状態等に関する評価を実施する。また、実習生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型実習を通して、様々な疾患・状態の対象者に対して基本的な検査測定等の実施ができることを目標とする。さらに、得られた情報から障害像を考え、課題解決に向けた仮説を立てる過程、対象者の障害像の把握、治療目標および治療計画の立案を学ぶことを目標とする。
到達目標	①チェックリスト内の項目（水準Ⅰ：指導者の直接監視下で実習生により実施されるべき項目）について可能な限り協同参加、実施をし、その意義・目的について学ぶ。 ②実習における各自の行動目標を明確化できる。 ③理学療法の対象者との関係性構築について理解できる。 ④チーム内での多職種との関係性および理学療法士としての役割について理解できる。 ⑤理学療法プロセスについて理解できる。 ⑥対象者に対する理学療法実践において、リスク管理ができる。 ⑦対象者に対する理学療法実践において、理学療法評価ができる。

講義計画

・実習前客観的臨床能力試験（OSCE）
・実習前多肢選択筆記試験（CBT）
・実習前オリエンテーション
・担当教員による個別オリエンテーション
・実習に対する行動目標設定
・学外実習（医療提供施設など）5週間
・実習後ホームルーム
・担当教員による個別FB
・実習後客観的臨床能力試験（OSCE）
・実習後多肢選択筆記試験（CBT）

教科書	臨床実習概要、臨床実習要項、その他適宜配布
参考文献	指定なし（適宜指示）
授業方法	OSCE、CBT、実習前オリエンテーション、実習、実習後HR
関連科目	
成績評価基準と方法	形成的評価（実習指導者による情意領域ルーブリック評価、認知・精神運動領域チェックリスト）、提出物、総括的評価などにもとづき学校が行う。また、臨床実習という科目性質上、社会的基礎力の欠如を認めると判断される者については、実習への参加を認めない。実習前オリエンテーションを受講しない者に関しては、実習への参加を原則認めない。
その他 （学生へのメッセージ・履修上の留意点）	実習施設の職員、指導者の指示に従い、本校学生の立場をわきまえ行動すること。